

「長野県の金融経済動向」（6月）の前回との比較

2017年6月

2017年5月

（総論）

長野県経済は、緩やかに回復している。	長野県経済は、緩やかに回復している。
--------------------	--------------------

（各論）

公共投資	横ばい圏内の動きとなっている。	横ばい圏内の動きとなっている。
住宅投資	持ち直している。	持ち直している。
設備投資	緩やかに増加しているものの、企業の投資姿勢にはなお慎重さがみられている。	緩やかに増加しているものの、企業の投資姿勢にはなお慎重さがみられている。
個人消費	一部に弱めの動きもみられるが、底堅く推移している。	一部に弱めの動きもみられるが、底堅く推移している。
生産	回復している。	回復している。
雇用・所得	着実な改善が続いている。	着実な改善が続いている。

1. 実体経済

（生産）

半導体関連・電子部品等	スマートフォン向けが持ち直しているほか、データセンターや生産用機械向けの引き合いが強まっていることから、生産は回復している。	スマートフォン向けが持ち直しているほか、データセンターや生産用機械向けの引き合いが強まっていることから、生産は回復している。
自動車関連	海外需要が総じて堅調なほか、国内需要が新型車等を中心に底堅いことから、生産は持ち直している。	海外需要が総じて堅調なほか、国内需要が新型車等を中心に底堅いことから、生産は持ち直している。
機械・同関連部品等	計器は、建設機械、半導体関連向けなどで生産は回復している。工作機械は、自動車や半導体関連の設備投資の増加を受け、生産は持ち直しているが、北米向けには足踏み感がみられている。成形機は、一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内で推移している。バルブは、プラント向け需要が弱含んでいることから、生産は横ばい圏内で推移している。	計器は、建設機械、半導体関連向けなどで生産は回復している。工作機械は、自動車や半導体関連の設備投資の増加を受け、生産は持ち直しているが、北米向けには足踏み感がみられている。成形機は、一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内で推移している。バルブは、プラント向け需要が弱含んでいることから、生産は横ばい圏内で推移している。
飲料	茶系飲料やミネラルウォーター類の需要に支えられ、生産は持ち直しつつある。	生産は横ばい圏内で推移している。

(個人消費)

大型小売店 売上高	4月は一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。	3月は一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。
家電販売	4月は前年を上回った。	3月は前年を上回った。
自動車販売	5月は前年を上回った。	4月は前年を上回った。

(公共・住宅投資)

公共工事請負金額	4月は国、県、市町村、独立行政法人等の発注分が増加したことから、前年を上回った。	3月は独立行政法人等の発注分が増加したものの、国、県、市町村の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。
住宅着工戸数	4月は持家、貸家、分譲が減少したことから、前年を下回った。	3月は貸家が増加したものの、持家、分譲が減少したことから、全体では前年を下回った。

(雇用・所得)

雇用・所得	有効求人倍率をみると、4月は新規求人数が増加したことから上昇した。所得面では、3月は一人当り名目賃金が前年を下回ったものの、常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年並みとなった。	有効求人倍率をみると、3月は新規求職者数が増加したことから低下した。所得面では、3月は一人当り名目賃金が前年を下回ったものの、常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年並みとなった。
-------	--	---

(物 価)

消費者物価 (除く生鮮食品)	4月は前年を上回った。	3月は前年を上回った。
-------------------	-------------	-------------

2. 金 融

貸 出 金	4月は前年を上回った。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要は持ち直している。個人向けは、前年を上回って推移した。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。	3月は前年を上回った。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要は持ち直している。個人向けは、前年を上回って推移した。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。
預 金	4月は公金預金が前年を下回ったものの、法人預金、個人預金が前年を上回ったことにより、全体でも前年を上回った。	3月は法人預金、個人預金、公金預金いずれも前年を上回った。